



小学生用 読書のすすめ

にこまる

読書の習慣を身につけよう！

読書をとおして、文章を読んで理解する力、想像する力、考える力、表現する力などが育つだけでなく、多くの知識を身につけたり、いろいろな文化を理解したりすることができます。また、文学作品、自然科学関係の本や新聞、図鑑などの資料を読むことを通して、自ら学ぶ楽しさや知る喜びを身につけ、「もっと知りたい」「本当はどういうことだろう」など子どもの学ぶ力を高めることができます。

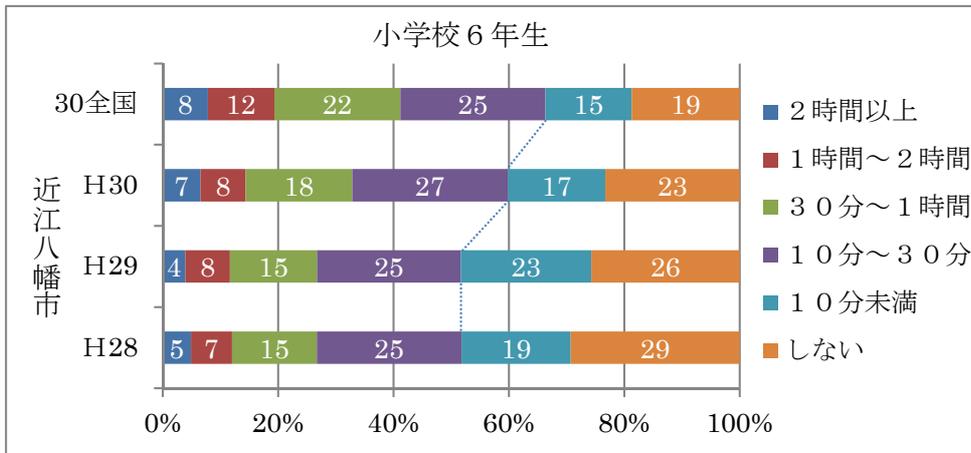
全国学力・学習状況調査の結果を見ると、読書習慣がある子どものほうが、正答率が高い傾向が見られます。

読書習慣は、中学生までに身につけておくことが大切です。

平成30年度全国学力・学習状況調査 近江八幡市の小学校6年生の結果から

児童質問紙の結果から

○「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」の回答結果

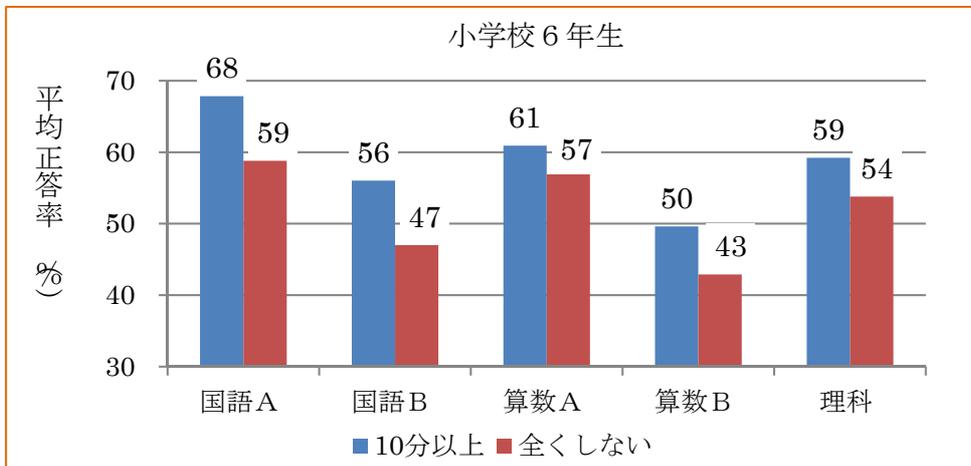


平成30年度「10分以上読書をしている児童」の割合

近江八幡市 60%
全国 67%

読書時間は長くなってきていますが、全国と比べ、まだ、短いことが分かります。

○読書を「10分以上する児童」と「全くしない児童」の平均正答率の比較 (近江八幡市)



読書を「10分以上する児童」の平均正答率は、国語だけでなく、算数・理科でも高い傾向がありました。

読書を通して、問題を読んで、意味を理解する力が高まっていると考えられます。

子どもたちに読書習慣をつけるために

本との出会いの場をつくりましょう

定期的に図書館に通ったり、学校の図書室を利用するようにすすめたりするなど、本と接する機会を多くつくりましょう。

家にある本を、子どもが手に取りやすい場所に置くのも一つの方法です。

読書の時間をつくりましょう

読書の時間を子どもと相談して決め、取り組みましょう。長い時間でなく10分間くらいからでもよいので、毎日続けることが大切です。テレビを見たりスマートフォンを使ったりゲームをしたりする時間を短くして、読書に時間にするといいです。できれば、保護者も一緒に読書できるとよりよいです。

ほめ、認め、励まし、対話しましょう

家族からほめてもらったり認めてもらったりすることは、子どもたちにとって大きな励みになります。読書習慣をつくるためには、続けることが大切です。子どもが続けられるよう励ましてみましょう。また、できれば同じ本を読んで、感想などを話し合うと対話のよいきっかけになります。

家庭でこんなふうをサポートしましょう

1・2
年生

- ・本の読み聞かせを聞くだけでなく、一人で本を読もうとするようになり、知っている言葉の量が増え、文字で表された場面や情景をイメージするようになる時期です。
- ・読み聞かせや読書を一緒にしましょう。
- ・子どもが興味をもつ本から読書をはじめましょう。
- ・ほめてあげましょう。

3・4
年生

- ・最後まで本を読み通すことができる子どもは、自分の考え方と比較して読むことができるようになるとともに、読む速度が上がり、多くの本を読むようになる時期です。また、本好き・本嫌いが出る頃です。
- ・子どもが興味をもつ本をどんどん読ませましょう。
- ・図書館や学校の図書室の利用をすすめましょう。

5・6
年生

- ・本の選択ができ始め、その良さを味わうことができるようになり、好みの本の傾向が現れるとともに、読書の幅が広がり始める時期です。
- ・いろいろなジャンルの本を子どもにすすめましょう。
- ・読書の時間を決めて、続けるよう声をかけましょう。